

福井県支部便り (辟雍会通信第7号)

～ 出愛いに感謝～ ありがとうございます

奥田静巨 (B類保健体育) 1982年3月卒

哲学者の森信三さんは、「人は一生のうち逢うべき人には必ず逢える。しかも一瞬早過ぎず、一瞬遅過ぎない時に。」と言っている。まさに、大学時代に出逢えた多くの方々は、私にとって出逢うべきして出逢えた貴重な存在であったとつくづく思っている。

私は、高校時代に最後の夏に甲子園出場を果たしたが、大学野球部に出逢った同僚、先輩や後輩は私の野球観を大きく変換する恩人となった。甲子園に出場したのはチームであり、大学では私以上に実力を持った人たち、それよりも野球に対して熱い熱い思いと真摯に向き合う姿勢は、一緒に練習をしていくうちに私の人格や性格をも変えてくれた。幸いにも、高校、大学ともに全国大会が最後の舞台となったが、高校時代の最後は「やり終えたという思い」で、大学時代の最後は「もっと野球がしたという思い」でそれぞれの野球生活を終えたことが何よりもの証拠である。



教員になってからは、その思いをしっかりと胸に刻み、中学校野球の指導者として、高校、大学時代に出逢った方々との縁の力で選手育成に努めることができた。

今年で10年間勤めあげた日本ハムファイターズ監督を退任し、野球日本代表である侍ジャパン監督の第1候補としてネットに取り上げられている栗山英樹前監督も2学年下の後輩であり、彼と同じグラウンドで汗を流したことは一番の誇りである。彼もまた、東京学芸大学および野球部での経験が指導者としての土台になったのではないだろうか。さらなる活躍を祈願し期待したい。

今、ドラえもののタイムマシンでどこに戻りたいと問われれば、「大学時代」と即答するだろう。そして、大学時代に戻ったなら、出逢えた方々一人一人にお礼を言いたい。「出逢い(出愛い)に感謝します。ありがとうございます。」と。



ヤマザキ自家用の配送トラック (小林撮影
自宅近くのドラッグストア駐車場にて)

ご存知ですか? (編集後記: 福井支部事務局担当 小林弥寿夫)

学芸大学正門入ってすぐ左手に、辟雍会事務局が置かれている20周年記念飯島同窓会館があります。東京学芸大学創立20周年に「山崎製パン」の創業者の飯島藤十郎氏(1989年12月4日、79歳ご逝去)が建設費を寄付され、その同窓会館ができました。

飯島氏は、現在の東京学芸大学の前身にあたる東京府豊島師範学校を卒業後、東京市内の小学校教員を経て、東京府立航空工業学校の体育教師になりました。師範学校では、陸上競技部に所属されたようで、現在の学芸大学陸上競技部同窓会「獅友会」会員名簿にも記載されています。

教師をしていた戦争直下では陸軍に召集されましたが、復員後1948年に市川京成国府台駅前に山崎製パンを開業されました。飯島氏は復員後、千葉県市川市に設立した東台農事実行組合でもパン製造を営んでいたため、当時は食糧管理制度下で製パン製造は厳しく統制されていて、「飯島」の名前では認可が下りず、妹さんの嫁ぎ先の姓である「山崎」名義で認可を得ました。商号が「山崎製パン」となったのはこの経緯によるものだそうです。

私ごとですが、週2日ほど朝食や昼食で山崎製パンのロイヤルブレッドやランチパックなどを食べています。特に「ヤマザキ春のパン祭り」のシール集めで、もらったいろいろな「白いお皿」が我が家の食卓でも賑わせています。また、教職退職後に毎年観戦に出かけている「日本陸上競技選手権大会」、一昨年正月に出かけて観戦した「全日本実業団対抗駅伝競走大会(ニューイヤー駅伝)」や日本サッカーリーグ「ジェフユナイテッド千葉」などスポーツ振興支援でも山崎製パンはオフィシャルスポンサーを務めています。(文内、一部『ウィキペディア(Wikipedia)』より)どうぞ、懐かしく学芸大学へ行かれることがありましたら、飯島同窓会館を覗いてみてください。

今号7号は奥田さん(一昨年栗野中学校長で退職)からコメントをいただきました。次号は、1月下旬発行の予定です。お楽しみに。では少し早すぎますが、どうぞ良いお年をお迎えください。